

施策評価シート (平成22年度の振り返り、総括)

作成日 平成23年 06月 22日

施策 No.	35	施策名	観光の振興
主管課名	商工観光課	電話番号	0285-83-8135
関係課名	農政課、企画課		

施策の対象	市内を訪れる観光客 (首都圏住民が中心的なターゲット層)								
対象指標名	単位	16年度実績	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	26年度見込
観光客数	人				1,899,162	2,547,725	2,785,291	2,806,703	2,750,000
関東 1都6県の人口	人				41,786,000	42,176,157	42,420,000	42,594,981	

施策の意図	本市の魅力を目的に、市外から多くの人々に訪れてもらい、活力あるまちづくりをすすめる。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入込客数は、県調査の観光客入込客数 (H.22.1~H.22.12)</li> <li>・その他は、商工観光課で調査したデータ。</li> <li>・一人当たりの消費高の算出は、井頭温泉・チャットパレス・ゴルフ場・物産会館・道の駅</li> <li>・あく里っ娘の売上高を実人員で割出して算出。</li> </ul> 平成22年度実績 (1,410,591,113円 ÷ 875,786人 1,610円)								
成果指標名	単位	16年度実績	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	26年度基本計画目標値
観光客入り込み客数	人				1,899,162	2,547,725	2,785,291	2,806,703	2,750,000
客一人当たりの消費高	円				2,198	1,641	1,625	1,610	1,800

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光は市民協働によって推進していくことが重要であり、行政はその支援をしていくことが役割となる。</li> <li>・観光協会が、行政と民間をつなぐ役割を果たしている。</li> </ul>								
-------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

- ・井頭公園には、年間約 88 万 6 千人の来場者があり、前年比 5 万 5 千人の増となっている。また、隣接する井頭温泉には約 33 万人、あぐりっ娘には 14 万 8 千人の来場者があった。
- ・真岡木綿会館（平成 20 年 4 月オープン）の入館者は、17,640 人で、前年比 5,122 人の増。
- ・観光客数で、施設修繕や天候により減少した施設は井頭温泉で 3 万 4 千人、夏祭り で 5 万人、大産業祭で 2 万 5 千人、道の駅が 8 千人の減少となったが、全体では、各施設やイベントで微増となり、前年比 2 万 2 千人の増となった。

22 年度の  
評価結果

## 2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

- ・観光協会のホームページから季節にあわせたイベントや祭事などを情報発信し、PRを図った。
- ・市では、県やすらぎの栃木路、芳賀地域整備推進協議会と連携し、新宿駅、大宮駅、ツインリンクもてぎ等のイベントにおいて共同にて広域観光のPRを行った。また、埼玉県桶川市のべに花祭に市単独で参加しPRした。
- ・本市観光の現状と課題を見直して、新たな観光資源の発掘や推進プランなどを検討するため、真岡市観光ネットワーク検討委員会により検討された中間報告書が平成22年9月に提出された。
- ・「真岡の一万本桜まつり」「もおか木綿ふれあいまつり」に、駅からハイキング事業をタイアップさせて市外から誘客を図った（492人）。
- ・「真岡の一万本桜まつり」「中村八幡宮流鏝馬」「もおか木綿ふれあいまつり」「大産業祭」の開催にあわせて、市内観光施設を巡る周遊バスを運行した（534人が利用）
- ・第2回の「真岡浪漫ひな飾り」を金鈴荘で実施（7,013人が入館）
- ・芳賀地域「食の街道」推進協議会に加盟し、いちごをテーマに「いい芳賀いちご夢街道」として地域ブランドの確立に向け1市4町で広域連携を図った。
- ・「いちご祭」や「あく里っ娘でのいちご狩り」への誘客を実施して、いちご日本一のPRを図った。
- ・市内各施設、イベント等でパンフレットの配布や、県観光協会東京事務所にパンフレットを設置し、さらに2月3日、4日の2日間、日本橋イベントスペースにおいて本市観光のPRを図った。
- ・芳賀地域整備推進協議会と連携し、雑誌記者・新聞記者等の報道関係者12名を招待し真岡市内を案内した。
- ・新規事業として、真岡の名所・イベントなどの観光PR案内板を市内3ヶ所に設置した
- ・観光協会と連携し、真岡のカレンダーを作成し（ホームページよりダウンロード）、真岡の名所・イベントのPRを図った。
- ・平成24年5月に東京スカイツリータウン内にオープンする、栃木県アンテナショップ出店商品候補リスト114件を提出した。
- ・本市の観光資源等を市内、外に向けて広くPRするために、とちぎテレビに番組の制作、放送を委託、また、イベント情報をとちぎテレビとFM栃木で放送し、誘客の増加を図った。
- ・木綿の里もおか“ほっと”なまちづくり事業の中で、オンリーワン商品開発事業に取り組んだ。

22年度の  
評価結果

### 3. 施策の課題認識と改革改善の方向

- ・真岡木綿会館、井頭温泉、あぐりっ娘、道の駅にのみや、尊徳資料館等を観光情報の発信拠点と位置付けて、イベント情報や季節の祭事等の観光情報を提供して誘客を図っていく。
- ・観光協会ホームページやバス広告（水戸、大宮）などを活用し、近隣県や首都圏等に本市の魅力を積極的に情報発信していく。
- ・真岡の特産品や新商品を開発してPRを図っていく。
- ・おもてなしの心で、四季折々の新たな企画を考え、観光客のリピーター化を推進する。
- ・県内や郡内で共同しての広域観光の推進を図っていく。
- ・駅前地区の賑わいを創出し、市街地活性化の推進を図っていく。
- ・観光ネットワーク協議会を設置し、観光まちづくりを策定し、本市の魅力アップを図ることで、多くの観光客に来てもらい、真岡を好きになってもらう。
- ・井頭公園に展示してあるSLを、真岡駅に移動して観光拠点としていくための整備計画の策定を進める。
- ・平成23年度も日本橋プラザビルのイベントスペースにおいて物産展を開催し、真岡の観光PRを実施する。
- ・真岡市物産会館が震災による被害で解体となるため、仮設店舗での営業再開、新築に向けた検討を実施する。
- ・観光客入込み客数が、平成21年度で26年度の目標値に達成したが、震災による影響で大きく落ち込んでおり、復活に向けて努力する。
- ・栃木県アンテナショップで販売してもらえるような、商品開発に努めていく。
- ・引き続き、本市の観光資源やイベント情報の放送を委託し誘客を図っていく。

22年度の  
評価結果

補足事項